

子どもたちは、ひとりひとりが、かけがえのない宝の存在
子どもが幸福な世界は
すべての人にとって幸福な世界です

国連が定めた「世界の子どもたちのための
平和の文化と非暴力の国際10年」(2001~2010年)にあたり
子どもたちを取り巻く様々な課題を浮き彫りにし
“子どもの幸福”のために何ができるのかを
共に考えたいと思います

回覧



平和の文化と子ども展

子どもの幸福のために

2009年 2月5日(木) ~ 9日(月)

午前10時~午後8時

※ただし、2月5日(木)は午後1時開場、9日(月)は午後6時閉場

エコルマ ホール

ECORMA HALL

(狛江市民ホール)6階 展示・多目的室
(小田急線狛江駅前)

※入場無料



主催/創価学会女性平和委員会 「平和の文化と子ども展」調布狛江展実行委員会
後援/ユニセフ 日本UNHCR協会(国連難民高等弁務官事務所国内委員会)
<http://www.sokanet.jp>

平和の文化と子ども展

子どもの幸福のために

子どもたちは、ひとりひとりが、かけがえのない宝の存在です。おとなが、そのありのままの姿を受けとめ、何があっても信じていけば、その安心感につつまれて、子どもたちは大きく成長していきます。この展示が“子ども観”を問い直し、子どもたちのために何ができるのかを考える機会となれば幸いです。

創価学会女性平和委員会

Part

1

日本にすむ子どもたち

子どもは自分のことをどう見ているのでしょうか？いじめや虐待など、子どもたちをとりまく問題や、食育、遊び、読書などの大切さを考えます。

おとなに言われてうれしい言葉

おとなに言われていやな言葉

子どもたち1000人に聞きました

子どもだから得？

子どもだから損？

Part

2

同じ地球にすむ子どもたち

貧困、紛争などにより、生存すら危うい子どもたちがたくさんいます。この子どもたちの現状を知ることが、変革への第一歩です。



©UNICEF/HQ02-0298
Giacomo Pirozzi

2002年 国連子ども総会
©UNICEF/HQ02-0474/Donna DeCesare



Part

3

いのち輝く子どもたち

子どものあるがままを認め、子どもの心の声に耳を傾ける。それが「平和の文化」です。子ども観の変遷をたどり、子どもの権利条約の精神について考えます。

子どもの権利条約“3つの柱”

子どもは子ども

子どもは成長・発達する

子どもはおとなと同じ人間

わたしが主役



親



子どもにかかわるすべてのおとな



Part

4

子どもの幸福のために

子どもの幸福は、すべての人の願いです。創価学会は創立以来、子どもの幸福のために、平和の心を広げてきました。



『タノシイコドモ』
1946年戸田城聖発行による日本語・英語対訳付絵本